

生涯学習センターのあり方検討

○平成6年にオープンした八尾市生涯学習センターは、利用開始後、市民の生涯学習に対する需要の変化・多様化、そして、社会環境の変化が生じており、それらを踏まえて、施設機能やサービスのあり方について検討を進める。

検討経緯

1. 学識経験者や文化関係団体からの意見・協議

- ①社会教育や生涯学習分野を専門とする大学教授、②社会教育や生涯学習に関する審議会委員
- ③市内で文化的活動を行う人々、④地域で生涯学習活動に取り組む人々
- ⑤生涯学習関係施設で勤務する職員や利用する市民

2. 生涯学習センターなど生涯学習施設利用者の意識調査

- ①調査期間:平成30年10月1日から10月26日まで
- ②調査対象:八尾市内在住16歳以上の3,000人(有効回収票1,778票)
- ③調査方法:市内社会教育施設(生涯学習センター、コミセン等で調査票を配布)

3. 他自治体の視察調査や現地見学

- ①視察先:大東市、茨木市、枚方市 ②現地見学:富田林市、

4. 庁内関係課などとの連携協議

- ①協議関係課:行政改革課、文化国際課、コミュニティ政策推進課、他

現状課題・検討事案

1. あり方検討に至る段階での主な課題

- ①施設に対する昨今の生涯学習ニーズとの乖離
→社会教育施設には、生涯にわたり学びを支援し、地域社会の課題や変化に対応した学習と活動が求められる。
- ②施設稼働率や認知度の低迷に対する対応
→生涯学習センターの諸室稼働率の低迷と施設自体の認知度の低下
- ③生涯学習センターが果たす役割の変化への対応
→生涯学習センターとコミセンなど他の市民が学ぶ施設との役割分担の見直し
- ④施設自体の設備の老朽化と時代に沿った機能付加
→建築後、設備等が老朽化し、また、時代の変化に対応していない設備の存在

2. 検討事案

- ①市民の生涯学習に対するニーズの多様化・高度化への対応方針
- ②社会環境の変化に伴う施設設備のあり方と対応方策
- ③市民が更に利用しやすい施設となるための運営方策

市民意識調査

1. 調査結果(一部抜粋)

- ①生涯学習活動の目的は「余暇を有意義に楽しむため」が54.5%、「健康・体力づくりのため」が48.2%
- ②生涯学習内容は「趣味娯楽の学習」が64.3%、スポーツ・レクリエーションが35.9%
- ③生涯学習の取り組み内容に「変化があった」人は40.6%、「現代的・社会的課題学習」が増加傾向
- ④生涯学習センターの認知度は「場所も何をする施設であるか知っている」人は74.6%
一方で、「何をする施設か知らない」「初めて名前を聞いた」人の合計は9.7%
- ⑤生涯学習センターに「趣味・娯楽の講座の充実」を求める回答が21.5%
- ⑥生涯学習センターの利用頻度は、「週1～2日程度」が15.9%、「ほとんど利用しない」が36.6%
- ⑦生涯学習活動を行う場所は、「コミュニティセンター」が50.0%、「生涯学習センター」が49.0%
- ⑧生涯学習センターを利用しない理由として
交通手段が乏しいためとの回答が38%、コミセンで十分との回答が38%
- ⑨生涯学習センターに期待することとして
健康づくりに関する講座の充実が24%、コミセンへの支援が22%
- ⑩生涯学習センターに改善してほしいこと
軽食・飲食できるスペースが23.2%、健康増進コーナーの充実が14.1%

2. 市民の主な意見

- ①交通利便性・設備等の改善 ②利用料金・開講日時の改善
- ③講座内容の充実 ④他の生涯学習施設や情報提供の改善

生涯学習活動の目的

- §余暇を有意義に過ごすため:54.5%
- §健康・体力づくり:38.2%
- §教養を高めるため:34.2%
- §家庭や日常生活に役立てるため:19.9%

生涯学習センターに期待する点

- §健康づくりに関する講座の充実:24.2%
- §コミセンの生涯学習活動への支援:22.4%
- §多種・多様な単発講座:21.1%

生涯学習活動センターで不足な点

- §趣味・娯楽の講座:54.5%
- §生涯学習講座の情報:13.9%
- §学んだ後の支援・フォロー:10.1%
- §日常生活の課題解決型講座:9.3%

生涯学習センターに改善して欲しい点

- §軽食・飲食ができるスペース:28.2%
- §健康増進コーナーの設備:14.1%
- §料理室や音楽室等の諸室の設備:13.0%
- §情報発信のツール:8.0%

市民の生涯学習活動内容の変化

☆変化前

- §趣味娯楽の学習:46.0%
- §現代的・社会的課題学習:5.2%
- §スポーツレクリエーション:30.0%
- §ボランティア・地域活動:11.0%

☆変化後(今後取り組みたい分野)

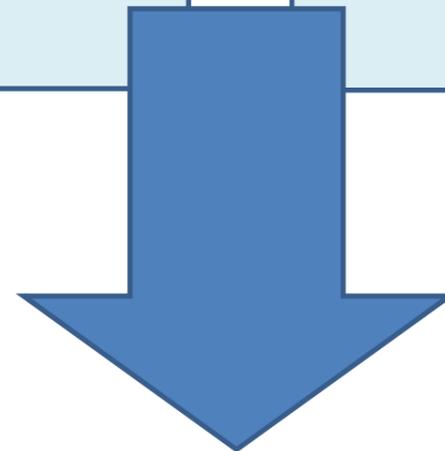
- §趣味娯楽の学習:46.7%
- §現代的・社会的課題学習:15.2%
- §スポーツレクリエーション:28.3%
- §ボランティア・地域活動:12.9%

具体的検討から見えてきた生涯学習センターが果たしてきたこと

1. **市民の趣味や娯楽を学びたいというニーズを満たす場としての存在**
 - 生涯学習センター利用目的で「講座・教室等の受講」が77.0%
 - 市民にとって様々な講座を開催し、市民が学べる場所として存在
2. **学んだことを発表する場としての存在**
 - 文化芸術芸能祭をはじめ、演舞や展示など市民の学習成果を発表する場
 - 講座で学んだ市民が自主グループとして、継続して学び、多くの人に広めている場
3. **日常の健康維持増進活動を実践できる場**
 - 身体を動かした健康づくりや、座学による健康に関する知識習得の場
 - フィットネスやジムにて、健康づくりに向けて、きっかけを市民に与えてくれる場
4. **生涯学習センター周辺地域住民の日常的な学習活動の場**
 - 近隣地域の用和・長池・八尾第一地区、西山本地域の生涯学習を行う場
5. **多世代の市民が学習する場**
 - 若い人から高齢者まで多世代が学習している場
 - 小中学生が自主的学習する学びの場

具体的検討から見えてきた現状課題と市民の期待

1. **生涯学習センターと地域の生涯学習活動との関係**
 - コミセンでのコミセン講座を含め生涯学習活動が活発化
 - 市内各地で取り組まれている生涯学習活動との接点を深化
 - 学んだことを地域に還元する循環型の生涯学習環境の充実
 - 市民の学びの成果を発信する場の充実
2. **生涯学習センターでの学習メニュー**
 - 趣味娯楽的な講座中心から現代的課題解決やボランティア活動の学習へ
 - 大学や地元企業等と連携した専門的・高度な学習ニーズへの対応
 - 若い世代や働く市民の学習ニーズへの対応と場の提供
3. **社会教育施設に求められる役割の変化**
 - 地域防災計画や多文化共生のまちづくりの中での役割
 - 「八尾市健康まちづくり宣言」を受けた、健康プラザとの更なる連携
 - 八尾市の伝統芸能・文化を次世代に継承する仕組みづくり
4. **生涯学習活動の支援と情報発信**
 - 市内各地での生涯学習活動をリードできる人材の育成と支援
 - 生涯学習活動への意欲と興味のある人への支援
 - 市民の生涯学習への潜在的ニーズを掘り起こす情報発信
 - 「市政だより」に留まらず、様々な媒体を活用した市民への情報の伝達・拡散
5. **生涯学習センターの施設を活かした生涯学習活動支援**
 - 生涯学習センター内で軽食しながら市民が自由に交流できる場の提供
 - 生涯学習センター1階ロビーでの様々な情報交流の掲示板を設置



今後の生涯学習センターが果たす役割と具体化に向けた方策

生涯学習センターは、八尾市民が生涯にわたって、豊かな人生をおくるため、市民が主体的に学術・文化・教養の向上を図るとともに、地域課題を解決するために必要な学習を行い、自ら学んだ成果を地域で実践につなげることができる、そのような市民の成長を支える機能を果たす、八尾市民の生涯学習の中心的存在である。

生涯学習センターは、本市のまちづくりの中心の成長を支える社会教育施設としての機能を果たすため、次の4点の役割を果たす施設として進めていく。

八尾市民の生涯学習活動のセンター機能

- コミセン等、地域の生涯学習拠点との連携と支援
- コミセン等が進める生涯学習活動への支援と地域に出かけるアウトリーチ講座の開催
- 市内各地域で行われる生涯学習活動の支援と発掘

市民の日常生活の課題解決・高度な学習が行える施設

- 趣味娯楽的な講座の充実に加えて、市民の日常生活の課題解決型・専門性の高い講座の開催を図り、コミセンとの役割分担を図る。
- 地域のまちづくり活動を進める中での学習・交流の場づくりを進める。
- 近隣の大学・研究機関や地元企業、他の文化活動施設と連携した講座を開講する（専門的知識の習得や講演会の聴講など）。
- 市民の健康増進意欲に沿った学習や身体を動かす講座を充実する。
- 市民の子育ての悩みを解消する場づくりを検討する。
- 外国人が日本・八尾市の文化を学び、また諸外国の文化を八尾市民が学ぶ場づくりを進める。

市内各地で行われている生涯学習活動、地域で活躍する人材の発掘と後押し

- 地域で市民が行っている生涯学習活動の発掘と支援（講師の紹介や相談）を進める。
- 地域で生涯学習の場を創出する人材の発掘とその活躍を後押しする。
- 生涯学習センター等で学んだ市民が、地域や日常生活の場で実際の活動につなげる仕組みづくりを進める。
- 生涯学習をお手伝いするボランティア意欲のある市民が活躍できる仕組みを構築する。
- 子どもたちが伝統文化・伝統芸能に触れ合い学ぶ場づくりの創出を関係団体と連携しながら進める。
- まちなかの達人が活躍する場づくりを生涯学習センターに留まらず市内各地で進める。

市民の学びのニーズを高める情報発信と交流

- 生涯学習への意欲があるが、取り組めていない人たちの学習活動への誘導（学びたい意欲を叶える学習情報の提供）
- 生涯学習関連の各講座や市民の生涯学習活動の情報収集と多様な情報発信
- 近隣大学等での講座や学習の場の情報収集と情報発信
- 市民が生涯学習について交流できる場の提供（生涯学習センターに掲示板設置）

あり方検討結果を具体化するための体制

指定管理者が担う役割

- 生涯学習センターの役割を踏まえた積極的な事業展開
- 八尾市・八尾市教育委員会と協調した運営
- コミセン運営協議会や文化連盟など各団体との連携を実施
- コミセン等職員や地域の各団体との連携を実施
- 市内各地域で開催される学びの場への参画とネットワークづくり

八尾市・八尾市教育委員会が担う役割

- 指定管理者選定における仕様書等の作成
- 指定管理者と連携した生涯学習施策の振興
- 指定管理者が地域に出向く際の支援(地域人材の紹介や行政機関等との橋渡し)
- あり方検討内容の具体化に向けて、指定管理者が段階的に取り組むようチェック
- 地域団体や行政関係機関と指定管理者とが接点を持つための場の提供

八尾市・八尾市教育委員会と指定管理者との連携

- 定期的な講座の開催状況、企画に関する連携会議
- 地域で展開されている生涯学習活動への参加と支援
- 市民が活躍できる場の創出 など

学識経験者からの意見

【主なコメント】

- ・ 現代的課題の講座に関しては、もっと幅広く八尾市民の実態に即した内容とする必要がある。
- ・ 趣味教養の講座は民間事業者やコミセンと重複する内容が見られる。生涯学習センターとしての講座を精査するべきである。
- ・ 生涯学習センターは各コミセンの中央機能を有して、各コミセンを支援する役割を持つべきである。
- ・ 市内各地に出向いて、地域における文化の掘り起し活動や地域の人々が活躍できる場づくりなど、アウトリーチ活動が重要である。
- ・ 市内で埋もれている文化を掘り起し、市民に知ってもらう活動が期待される。
- ・ 生涯学習センターで地域課題を解決に向けた研究活動、例えば、市民が研究員として、いろいろなことを調べて、発表する活動を生涯学習センターがコーディネートする。

生涯学習センター利用者の意見

【主なコメント】

- ・ 生涯学習センターでは、八尾市の伝統文化・伝統芸能を次の世代に引き継ぐための事業展開を期待する。
- ・ 施設利用が特定の団体や市民に固まっているようでは、長い目で施設の効用が低下しかねない。
- ・ 生涯学習センターに、若い世代の人が、順次、入ってきやすいようにすべきである。
- ・ 地域で生涯学習関係の活動(イベントなど行事)を行っている団体が生涯学習センターでも行事が行えるように、地域での取組みとセンターが結びつくべき。

各審議会等での意見

【主なコメント】

- ・ 趣味や娯楽教養の講座だけではなく、職業訓練や地域の魅力を発信することや、地域課題の解決に結びつく学習が行える講座も必要である。
- ・ 生涯学習センターは「センター機能」を発揮するべきである。地域で取り組まれている活動「点」を結び付けて『面』になるような役割を果たすべきである。
- ・ 生涯学習の目的は、その場だけ楽しければよいのではなく、学びが人生に豊かさをもたらすことである。市民が望む学びは何か、的確につかむ努力が必要である。
- ・ 生涯学習センターで開催する講座は、建物内での自己完結型に見える。市内外の学習施設や学習活動とのネットワークを形成することが求められる。
- ・ 立地的な弱点を克服するためにも、市内の各学習施設へ出向いた講座の開催や地域の学びを支援する活動を各地で展開することが必要である。
- ・ 若い世代(学生や勤労者、子育て世代など)が、参加しやすい雰囲気づくりと講座テーマの設定、時間の工夫が必要である。